

「徳島県内における南海地震に関する歴史資料（古文書・古記録）の調査研究」報告書

徳島県立文書館

担当 金原祐樹（徳島県立文書館）

I 調査研究の目的

徳島県は、これまで四国の太平洋沖の南海トラフを震源域とする大地震に何度も見まわられてきた。南海地震と呼ばれるこの地震は、おおよそ100年から150年の周期で発生している。

このうち康安地震(1361年)、慶長地震(1605年)、宝永地震(1707年)、安政地震(1854年)、そして昭和地震(1946年)の5回が、徳島県の歴史史料上に現れてきている地震である。これら過去の地震は、津波その他によって各地域に甚大な被害をもたらし、多くの尊い命と財産を奪ってきた。この南海トラフ巨大地震は、近い将来必ず発生すると予測されている。

こうした過去に起こった南海地震に関する記録は、数多く残されている。震災を直接体験した人びとが地震・津波の様子や被害の状況、さらには町村の復旧・復興の取組などの文書として、また当時の日記やその後作成した記録などに書き残したものである。こうした過去の南海地震に関する研究はさまざまな角度から行われている。しかし、南海地震に関する歴史資料は、安政南海地震(1854年)を中心に多数確認されているが、その調査と記録化は、系統的には行われていない。南海地震に関する古文書・古記録は、地域における被災の経験を記述したものであり、今後の被害の想定のみならず、災害に対して地域社会がどのように対処し、どのように克服・復興してきたかを知ることのできる貴重な記録財産である。

表1 徳島の被害記録がある南海地震一覧

こうあん 康安の南海地震	康安元年6月24日(1361年7月26日) 地震・津波にて大きな被害。『太平記』に阿波の雪(由岐)で津波被害の記述あり
えいしやう 永正の津波	永正9年8月4日(1512年9月13日) 穴喰浦の史料に記述あり。津波にて大きな被害
けいぢやう 慶長の地震津波	慶長9年12月16日(1605年2月3日) 穴喰浦の史料に記述あり。津波にて大きな被害
ほうえい 宝永の南海地震	宝永4年10月4日(1707年10月28日) 東海・東南海地震と連動したとされる。地震・津波で大きな被害、古文書・記録あり
あんぜい 安政の南海地震	嘉永7年11月5日(1854年12月24日) 東南海が前日に発生。阿波国内で死者200余人。地震・津波で大きな被害、古文書・記録・日記など多数あり
しやうわ 昭和の南海地震	昭和21(1946)年12月21日 地震津波で大きな被害。県内で死者202人、流失家屋413軒

※和暦の年月日は、史料の記述どおり。西暦の年月日はグレゴリオ暦(太陽暦)による。

また、平成28年は昭和南海地震が発生して70年を迎える年に当たる。これを機にこうした歴史資料（古文書・古記録）の基礎的な調査を行い、その研究成果を、古文書の訳文と解説を付した史料集や小冊子を刊行するとともに、南海地震の企画展及び調査報告会を開催して、広く県民に南海地震についての実態を分かりやすく提示することを目的とする。

II 調査対象および史料調査

1 調査対象

南海地震史料調査の対象は、徳島県立文書館を含む史料所蔵機関（海陽町立博物館・徳島県立図書館・松茂町歴史民俗資料館人形浄瑠璃芝居資料館）、海部郡地域の市町村役場および教育委員会および史料所蔵者宅とした。

地震による影響については県内に史料が広範に残っていることも予想されるが、史料の所在がはっきりしている史料所蔵機関および津波等により最も被害があった県南の海岸部を中心に調査を進めることとした。

調査を行うにあたり、南海地震調査委員会を組織し、調査委員は、古文書の解読・解説を行える専門の方々に委嘱した。

史料調査は、所在情報の確認およびデジタルカメラによる資料撮影にて行った。

2 史料調査委員会の編成

史料調査研究を行うにあたり、古文書解読の経験者である6名に委員を委嘱した。事務局と共に10人にて調査にあたることになった。

委員長	高橋 啓	(元鳴門教育大学学長 日本近世史)
委員	町田 哲	(鳴門教育大学准教授 日本近世史)
委員	松永 友和	(徳島県立博物館学芸員 日本近世史)
委員	菅野 将史	(松茂町立歴史民俗資料館学芸員 日本近世史)
委員	寺本 純子	(古文書解読経験者)
委員	谷 恵子	(古文書解読経験者)
事務局	山下 知之	(徳島県立文書館 館長)
事務局	徳野 隆	(徳島県立文書館)
事務局	金原 祐樹	(徳島県立文書館)
事務局	宮本 和宏	(徳島県立文書館)

3 史料調査委員会の活動

- ① 4月14日(木) 第1回南海地震史料調査委員会
場 所 文書館講座室
出席者 高橋 啓委員長・町田 哲委員・松永友和委員・菅野将史委員・寺本純子委員・谷 恵子委員
事務局 山下知之・徳野 隆・金原祐樹・宮本和宏
徳島政策研究センター 岸本典子主任
内 容 年間スケジュールおよび史料調査方法の確認等を行った。
- ② 5月13日(金) 南海地震史料調査1
調査者 山下知之・金原祐樹
訪問先 海陽町教育委員会・海陽町立博物館・海陽町役場総務課
牟岐町教育委員会・牟岐町役場総務課・美波町役場総務課
内 容 海部郡内の史料所在情報の収集。
- ③ 5月27日(木) 南海地震史料調査2
調査者 菅野将史委員・徳野 隆・金原祐樹
訪問先 海陽町立博物館・海部公民館(海陽町海部支所)・浅川漁村センター(海陽町浅川支所)
内 容 海陽町立博物館所蔵 奥浦池内家文書・岡部家文書の所在調査。
海部公民館 教育委員会公文書・その他旧海部町公文書・古文書(棟付け帳・検地帳等の調査)の所在調査。

○岡部家文書木箱



○岡部家文書収納の状態



- ④ 6月9日(木) 南海地震史料調査3
調査者 金原祐樹
訪問先 小松島市教育委員会・小松島市総務課
阿南市行政情報課・阿南市文化振興課・徳島市総務課・徳島市史編さん
内 容 小松島市教育委員会に西野家文書がある。教育委員会所蔵資料のうち「世情控え」は南海地震に関する貴重資料である。
徳島市史編さん室「徳府世情控」に嘉永期前後の地震に関する記述があるとのこと。

⑤ 6月28日(火) 南海地震史料調査4

調査者 寺本純子委員・徳野 隆・金原祐樹

訪問先 海陽町役場・海陽町立博物館・海部公民館(海陽町役場海部支所)

内 容 海陽町役場の旧川東村公文書に昭和南海地震の記載あり。

海陽町立博物館所蔵の旧浅川村公文書に昭和南海地震の記録を発見。昭和22年度からの「村会議事録」と「復興資金綴」がある。

○海陽町議会事務局所蔵公文書

昭和20年～25年の旧川東村議会関係公文書



○海陽町立博物館所蔵, 旧浅川

公文書の調査。



⑥ 7月14日(木) 南海地震史料調査5

調査者 徳野 隆・金原祐樹

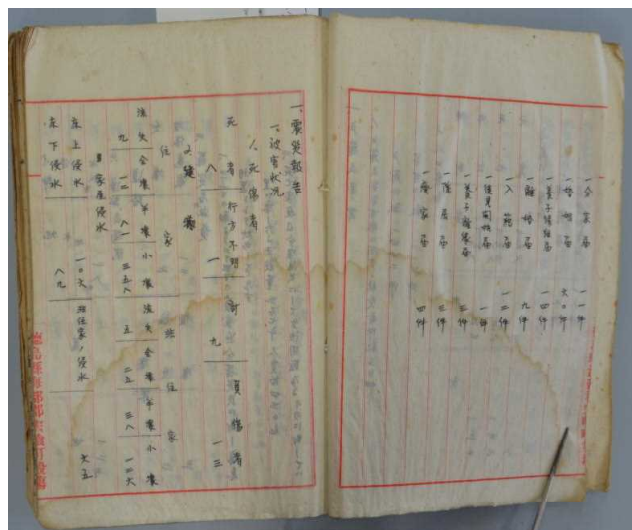
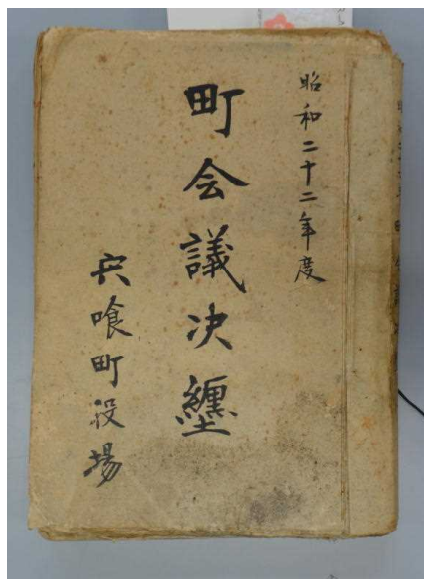
訪問先 海陽町役場穴喰支所

内 容 海陽町穴喰支所の旧穴喰町議会関係公文書の昭和21年度からの「村会議事録」等の中に昭和南海地震のまとまった記録あり。

○昭和22年度 穴喰町役場公文書

「町会議決纏」

穴喰町議会へ被害状況を報告している。



⑦ 8月2日(火) 南海地震史料調査6

調査者 松永友和委員・菅野将史委員・徳野 隆・金原祐樹

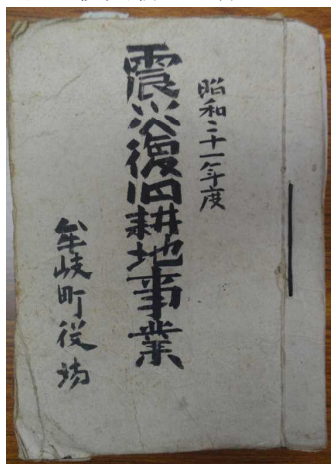
訪問先 牟岐町役場・牟岐八幡神社・牟岐町郷土資料館(教育委員会)

内 容 牟岐町役場に耕地道路等の土木復旧に関する昭和南海関係の公文書あり。
牟岐八幡神社に宝永地震にかかわる板額あり。『牟岐八幡神社扁額』
牟岐郷土資料館(牟岐町教育委員会所管)に、安政地震にかかわる内妻村
(牟岐町内)の古文書および昭和南海に関する詳細な公文書あり。

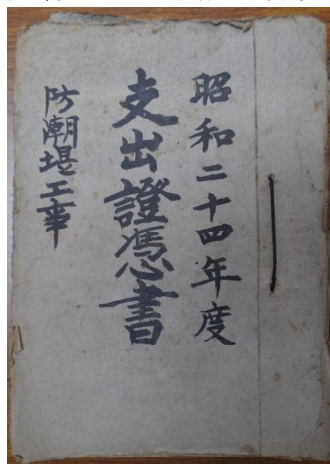
○牟岐町役場2階での調査



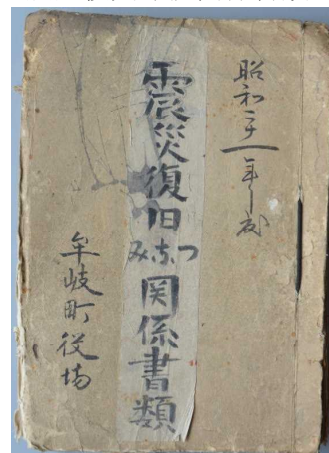
○牟岐町役場
震災復興耕地事業



○牟岐町役場
防潮堤工事支出証拠書類



○牟岐町教育委員会
震災復興津波関係書類



○牟岐八幡神社 宝永4年地震 扁額



⑧ 8月5日(金) 南海地震史料調査7

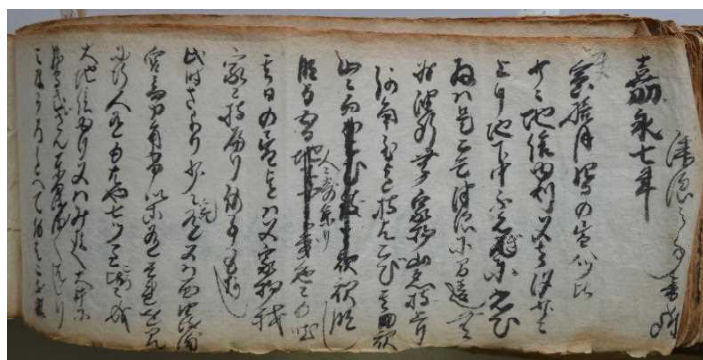
調査者 菅野将史委員・町田哲委員・徳野 隆・金原祐樹

訪問先 美波町立由岐公民館・由岐郷土資料展示室・旧由岐町商工会ビル

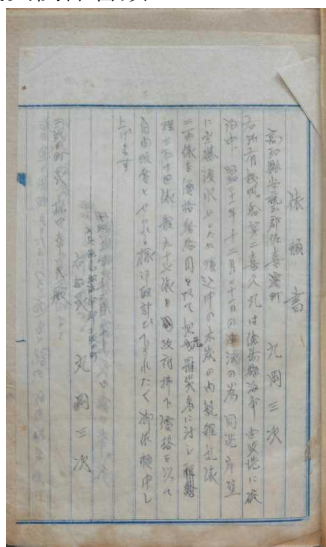
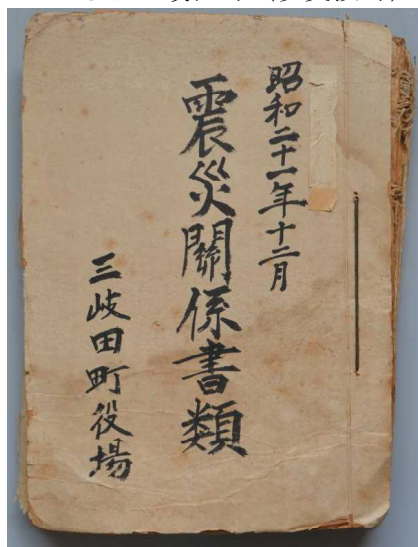
内 容 由岐郷土資料展示室に東由岐天神社「当家帳」という帳簿に嘉永南海地震の記載あり。

旧由岐町商工会ビル2階に『旧三岐田町震災関係文書』という昭和南海関係の公文書あり。その他由岐町史に関わる古文書も所蔵。

○ 東由岐天神社「当家帳」



○旧三岐田町(現美波町)震災関係書類



⑨ 9月14日(水) 第2回南海地震史料調査委員会

場 所 文書館講座室

出席者 高橋 啓委員長・町田 哲委員・松永友和委員・菅野将史委員・谷恵子委員
事務局 山下知之・徳野隆・金原祐樹・宮本和宏

内 容 これまでの調査を元にした、企画展の概要および普及用小冊子編集方針の決定。

4 海部郡各町調査による主な成果

海部郡内の、海陽町役場・支所・博物館、牟岐町役場・教育委員会、美波町立由岐公民館において、昭和南海地震当時の公文書（議会関係文書その他）が残されていることがわかった。特に、被害が甚大であった、旧宍喰町・旧浅川村・牟岐町・旧三岐田町にそれぞれ数は少ないが公文書が残されていることが確認できた。決して良い保存状況では無いこともわかったので、今後保存への対策も必要である。

牟岐八幡神社（牟岐町）の宝永地震に関する板額、内妻村（牟岐町）の嘉永地震での津波被害に関する文書、東由岐村天神社（美波町由岐）「当家帳」、広島春日神社（松茂町）「当家帳」等の史料も確認できた。

5 史料調査の対象

調査対象となった南海地震関係の歴史資料目録（表2）

No.	標題	史料番号	所蔵者情報ほか
◎康安地震			
1	太平記36(抜粋)	フシク01164	文書館所蔵 藤倉家文書(鳴門市北灘町)
2	南朝以来地震抄録(抜粋)	ニシノ00433	文書館所蔵 多田家文書(小松島市金磯)
3	淡路名所図会 4(抜粋)	イワム01776	文書館所蔵 岩村家文書(鳴門市鳴門町)
◎永正地震			
4	円頓寺日記(抜粋)		大日寺所蔵 (海陽町宍喰浦)
5	震潮記(抜粋)		田井家所蔵 (海陽町宍喰浦)
6	南海以来地震抄録(抜粋)	ニシノ00433	文書館所蔵 多田家文書(小松島市金磯)
◎慶長地震			
7	大日寺日記(抜粋)		大日寺所蔵 (海陽町宍喰浦)
8	円頓寺日記(抜粋)		大日寺所蔵 (海陽町宍喰浦)
9	震潮記(抜粋)		田井家所蔵 (海陽町宍喰浦)
10	南朝以来地震抄録(抜粋)	ニシノ00433	文書館所蔵 多田家文書(小松島市金磯)

No.	標題	史料番号	所蔵者情報ほか
11	阿淡年表秘録(抜粋)		徳島県史料一『阿淡年表秘録』
◎宝永地震			
文書			
12	牟岐八幡神社額		牟岐八幡神社所蔵 (牟岐町牟岐)
13	覚(大林村裏浜, 坂野村苅屋裏浜 元禄8年橋本大五郎築立新田譲渡の件・写)	刈E00792	文書館所蔵 栗本家文書(小松島市和田津開)
14	新田奉願就被仰付諸事留書帳(抜粋)	刈E00738	文書館所蔵 栗本家文書(小松島市和田津開)
15	武井直左衛門(達・宝永4年の大地震被害報告提出の廻状)	刈J300127	文書館所蔵 森家文書(小松島市和田島)
16	申渡覚(宝永4年の地震により百姓共困窮につき御米貸付けの件外申し渡し状)	刈J302529	文書館所蔵 森家文書(小松島市和田島)
17	仕上ル御請書物之事(大地震, 間ノ新田潮入につき新田築立のため借銀請書・控)	刈J300224	文書館所蔵 森家文書(小松島市和田島)
記録			
18	円頓寺旧記(抜粋)		大日寺所蔵 (海陽町穴喰浦)
19	震潮記(抜粋)		田井家所蔵 (海陽町穴喰浦)
20	南朝以来地震抄録(抜粋)		文書館所蔵 多田家文書(小松島市金磯)
21	阿淡年表秘録(抜粋)		徳島県史料二『阿淡年表秘録』
◎安政地震			
文書 那賀郡内妻村(牟岐町)			
22	海部郡内妻村外間勸農御普請所当月五日之津浪二相疼候分相約奉願上帳		牟岐町教育委員会所蔵(牟岐町内妻)
文書 那賀郡和田島村(小松島市)森家文書			
23	鶴羽友次郎(書簡・大地震被害状況問い合わせ)	刈J300321	文書館所蔵 森家文書(小松島市和田島)
24	乍恐奉申上覚(嘉永7年11月5日大地震被害状況報告・控)	刈J300101	文書館所蔵 森家文書(小松島市和田島)

No.	標題	史料番号	所蔵者情報ほか
25	和田島村漁師共所持之諸網流失無難之株取調へ奉指上帳(安政元年11月5日の大地震被害報告)	㊦J303386001	文書館所蔵 森家文書(小松島市和田島)
26	浅石武次郎(書簡・大地震被害状況実地検分立会の件)	㊦J300339	文書館所蔵 森家文書(小松島市和田島)
27	奉申上覚(安政元年の大地震による地疼みにつき見分願)	㊦J300234	文書館所蔵 森家文書(小松島市和田島)
28	安政二卯年二月和田島村萱野床地震高潮二地疼二付御見分奉願上帳	㊦J300100	文書館所蔵 森家文書(小松島市和田島)
29	仕上御請書之覚(安政元年の地震により地疼みにつき米麦支給の件)	㊦J300233	文書館所蔵 森家文書(小松島市和田島)
30	仕上御請書之覚(安政元年11月5日の大地震被害により鍬下請書)	㊦J301383	文書館所蔵 森家文書(小松島市和田島)
31	御家中之面々(嘉永大地震救済策)	㊦J302035	文書館所蔵 森家文書(小松島市和田島)
32	和田島村萱野床開地大地震高潮二川成・砂入等二相成候二付相認奉指上帳	㊦J302034	文書館所蔵 森家文書(小松島市和田島)
33	仕上御請書之覚(安政大地震高潮により汐入りの田地, 鍬下請書・控)	㊦J302040	文書館所蔵 森家文書(小松島市和田島)
文書那賀郡和田津新田(小松島市)栗本家文書			
34	和田津新田(安政元年大地震による汐入地見分願上帳写)	㊦E00901043	文書館所蔵 栗本家文書(小松島市和田津開)
35	付寄洲海成ノ事跡御下問二付上申	㊦E00901042	文書館所蔵 栗本家文書(小松島市和田津開)
文書 那賀郡答島村(阿南市)山腰家文書			
36	乍恐奉願上覚(浪波に付船付新田大手堤破壊の件)	ヤマコ00066	文書館所蔵 山腰家文書(阿南市津乃峰町)

No.	標題	史料番号	所蔵者情報ほか
37	乍恐奉願上覚(船付新田 大手堤破壊に付)	ヤマコ00068	文書館所蔵 山腰家文書(阿南市 津乃峰町)
38	乍恐奉願上覚(船付新田 大手堤破損に付願書)	ヤマコ00056	文書館所蔵 山腰家文書(阿南市 津乃峰町)
39	乍恐奉願上覚(舟付新田 大手堤破損に付願書)	ヤマコ00050	文書館所蔵 山腰家文書(阿南市 津乃峰町)
40	申上覚	ヤマコ00031	文書館所蔵 山腰家文書(阿南市 津乃峰町)
41	乍恐奉願上覚(船付新田 大手堤破損に付願書)	ヤマコ00057	文書館所蔵 山腰家文書(阿南市 津乃峰町)
42	奉願上覚(船付新田大手 堤破損の件)	ヤマコ00063	文書館所蔵 山腰家文書(阿南市 津乃峰町)
43	仕渡書物之事	ヤマコ00032	文書館所蔵 山腰家文書(阿南市 津乃峰町)
文書 那賀郡辰巳新田(阿南市)・勝浦郡小松島浦(小松島市)井上家文書			
44	乍恐再応奉願上覚(大地 震により豊益辰巳両新田 の堤破損につき勸農普請 の土取り 願・控)	イノウ01635	文書館所蔵 井上家文書(阿南市 辰巳)
45	嘉永七寅歳十一月五日 大地震ニ付御本家様諸用 覚(大地震にて本家焼失に つき)	イノウ05302	文書館所蔵 井上家文書(阿南市 辰巳)
46	乍恐奉願上覚(原ヶ崎新開 地安政の地震により疼み につき開き残り分の下札願 ・控)	イノウ00887	文書館所蔵 井上家文書(阿南市 辰巳)
御触書			
47	御用筋跡書(抜粋)	イノウ05799	文書館所蔵 井上家文書(阿南市 辰巳)
48	御触帳(抜粋)	タタコ0111	文書館所蔵 武田家文書(つるぎ 町端山)
その他文書			
49	足代勝太夫(書簡・安政の 大地震にて拙宅大破につ き寄付依頼)	アイハ01565	文書館所蔵 粟飯原家文書(神山 町上分)

No.	標題	史料番号	所蔵者情報ほか
50	嘉永七寅六月十四日夜大地震諸方変事	カ+100012	文書館所蔵 金磯新田文書(小松島市金磯新田)
51	此度大地震二付(触書写)	ハン301660	文書館所蔵 坂東家文書(徳島市川内町)
52	嶋屋徳三郎(書簡・阿州大地震皆々無事につき安心の件ほか)	ハン301645000	文書館所蔵 坂東家文書(徳島市川内町)
53	萬屋次兵衛(書簡・大地震につき掛方商売停止の件ほか)	ハン301764000	文書館所蔵 坂東家文書(徳島市川内町)
54	万屋次兵衛(書簡・大地震状況報告ほか)	ハン302147000	文書館所蔵 坂東家文書(徳島市川内町)
55	私在所地しん二而(松代地震被害状況報告写)	ハン302535000	文書館所蔵 坂東家文書(徳島市川内町)
56	嘉永七寅年霜月四日より地震并出火二付市中御屋敷様見舞控	フキ705885	文書館所蔵 吹田家文書(阿南市富岡)
57	申上覚(地震高潮難渋人の件外報告)	フク703349	文書館所蔵 福田家文書(徳島市内?)
58	大地震並御近火諸事帳	ムトウ03355003	文書館所蔵 武藤家文書(徳島市内)
日記			
59	かどや日記 二番記録(抜粹)	モキ00002	文書館所蔵 元木家文書(石井町高原)
60	新居水竹日記(抜粹)	ニ1200008	徳島文理大学付属図書館所蔵 新居家文書
記録			
61	諸国大地震実録記并御国我等取混シ有姿記	ナカサ00462	文書館所蔵 中財家文書(徳島市川内町)
62	大地震大津波末代嘸全冊	サカ100243	文書館所蔵 酒井家文書(つるぎ町半田)
63	慈雲庵雲雀塚墨直会	サカ100345	文書館所蔵 酒井家文書(つるぎ町半田)
64	東由岐天神社当家帳		美波町教育委員会所蔵(美波町東由岐)

No.	標題	史料番号	所蔵者情報ほか
65	安政元年大變有増記		長谷家文書（海陽町大里）
66	広島春日神社当家帳		松茂町歴史民俗資料館所蔵 大西家文書(松茂町広島)
67	震潮記(抜粋)	田井家所蔵	田井家所蔵（海陽町穴喰浦）
68	嘉永七年大地震実録記(抜粋)	ニシ/00432	文書館所蔵 多田家文書(小松島市金磯)
69	世情控え	小松島市教育委員会所蔵	小松島市教育委員会所蔵多田家文書(小松島市金磯)
70	阿淡年表秘録続編(抜粋)		鳴門古文書研究会『阿淡年表秘録続編』
◎昭和南海地震			
公文書			
71	昭和21年度起債許可書	K200200321	文書館所蔵 地方課作成
72	川東村会議録	海陽町役場	海陽町役場所蔵
73	川東村予算関係書類	海陽町役場	海陽町役場所蔵
74	浅川村復興部復興資金関係	海陽町立博物館	海陽町立博物館所蔵 海陽町旧浅川村
75	浅川村村会議決綴	海陽町立博物館	海陽町立博物館所蔵 海陽町旧浅川村
76	川上村村会議決書綴	海陽町立博物館	海陽町立博物館所蔵 海陽町旧川上村
77	穴喰町町会議決纏	海陽町役場穴喰支所	海陽町役場穴喰支所所蔵
78	牟岐町震災復旧耕地事業	牟岐町役場	牟岐町役場所蔵
79	牟岐町防潮堤支出証拠書類	牟岐町役場	牟岐町役場所蔵
80	牟岐町古牟岐道路証拠書類綴	牟岐町役場	牟岐町役場所蔵
81	牟岐町震災復興つなみ関係書類	牟岐町教育委員会	牟岐町教育委員会所蔵
82	三岐田町震災関係書類	美波町教育委員会	美波町教育委員会所蔵
83	昭和二十二年度震災復旧耕地事業, 震災復旧土木事業, 水害復旧耕地事業予算書	コマツ01482000	文書館所蔵 小松島市関係公文書(小松島市立江町)

No.	標題	史料番号	所蔵者情報ほか
84	昭和二十二年度災害震災復旧土木事業収支証憑書綴	コマツ02295000	文書館所蔵 小松島市関係公文書 (小松島市立江町)
85	昭和二十二年度震災復旧耕地事業収支支出証憑書綴	コマツ02297000	文書館所蔵 小松島市関係公文書 (小松島市立江町)
86	昭和二十四年度昭和廿二・廿四年度震災復旧耕地事業歳入出証憑書綴	コマツ02463000	文書館所蔵 小松島市関係公文書 (小松島市立江町)
87	昭和二十四年度震災沈下災害復旧耕地事業歳入出証憑書綴	コマツ02466000	文書館所蔵 小松島市関係公文書 (小松島市立江町)
その他			
88	震災塩田被害調査書第一号	インキ00007000	文書館所蔵 本斎田塩業組合文書
89	第一回震災復旧貸付証書	インキ00400000	文書館所蔵 本斎田塩業組合文書
90	第二回震災復旧貸付金証書	インキ00401000	文書館所蔵 本斎田塩業組合文書
91	第三回震災復旧貸付金証書	インキ00402000	文書館所蔵 本斎田塩業組合文書
92	震災復旧耕地事業一卷書	アサナ00794000	文書館所蔵 麻名用水組合文書

この目録は、この調査によって確認した南海地震関係の歴史資料である。

Ⅲ 成果としての企画展・調査報告会等

史料調査の成果は、さまざまな形で県民に還元する活動を行った。

1 企画展「記録史料に見る南海地震展」

① 趣旨

昭和21年12月21日に発生した昭和南海地震から今年で70年を迎える。南海地震はある一定の周期をもって起きてきた。その時々地震について被災地であった徳島県の沿岸部を中心に様々な史料が残されている。南海地震での被災の実態や対応、復興の様子など当時の生々しい古文書・古記録・公文書等からわかりやすく紹介していく。

② 期間：平成28年10月25日（火）～平成29年1月29日（日）

③ 場所：文書館2階展示室 入場無料

④ 関連行事

展示解説：平成28年11月27日（日）・平成29年1月15日（日）

午後1時30分～3時 文書館2階講座室・展示室

南海地震史料調査委員会調査報告会

平成28年12月17日（土）午後1時30分～4時 文書館2階講座室

⑤ 内容

i 地震・津波史料を残してきた意志（導入として）

ii 文字に記された南海地震

○康安地震 『太平記』

『南朝以来地震抄録』（多田家文書）

○永正の津波 『穴喰浦旧記』（徴古雑抄）

『南朝以来地震抄録』（多田家文書）

『震潮記』（田井家文書）

○慶長の津波 『穴喰浦旧記』（徴古雑抄）

『南朝以来地震抄録』（多田家文書）

『震潮記』（田井家文書）

○宝永地震 『穴喰浦旧記』（徴古雑抄）

『南朝以来地震抄録』（多田家文書）

『震潮記』（田井家文書）

『牟岐八幡神社 板額』（牟岐八幡神社）

「栗本家文書」

○嘉永地震 多田家文書・中財家文書・田井家文書 その他多数

◎日記・記録から見た南海地震

◎文書から見た南海地震

iii 公文書に見る昭和南海地震

○海陽町の公文書

旧穴喰町

旧浅川村

旧川東村

○牟岐町の公文書

○美波町（旧三岐田町）の公文書

iv 展示パネルの作成

- ・館長あいさつパネル 1枚
- ・展示解説パネル A1サイズ 10枚を作成する

展示期間中の入館者：6,672人 開館日数：75日 1日平均：89人

○平成28年10月26日（水） 徳島新聞

過去に何度も徳島県を襲った南海地震について記した古文書や公文書を展示した企画展「記録資料に見る南海地震」が25日、徳島市の県立文書館で始まった。地震の被害や教訓を伝えることで、南海トラフ巨大地震に対する防災意識の向上につなげてもらう。来年1月29日まで。

室町時代前期（南北朝時代に発生した1361年の康安南海地震（正平地震）から1946年の昭和南海地震までの5回の巨大地震と、1512年の永正の津波についての記述がある古文書や公文書、木製の額など約40点を展示している。

南北朝時代の「太平記」、江戸時代の「震潮記」などの古文書には、地震と津波による被害をはじめ、避難生活やその後の復興、被災者支援の取り組みが書き残されている。牟岐町の公文書からは、昭和南海地震から1年後に慰霊祭が行われたことなどが分かる。

昭和南海地震（46年12月21日）から70年を迎えるのに合わせ同館が企画した。金原祐樹課長補佐は「県内でこれだけの災害が起きたということを知り、災害に備えてほしい」と話している。

企画展は午前9時半から午後5時まで、毎週月曜と毎月第3木曜（祝日と重なった場合は翌日）、12月29日から1月4日は休館。入場無料。同館では12月17日午後1時半から調査報告会、11月27日と来年1月15日のいずれも午後1時半から展示解説がある。

（坂田佑耶）

南海地震の教訓紹介

◀◀ 古文書や公文書



過去の南海地震に関する古文書など約40点が並ぶ企画展—徳島市の県立文書館

2 普及用小冊子の作成

企画展の開催に合わせて、普及用の小冊子を作成した。調査委員会の委員に執筆の分担を行い、この調査によって得たことをわかりやすく紹介することを目的に、5000部作成し、県内の小学校・中学校・高等学校、各市町村教育委員会等に配布した。

(平成28年10月25日刊行)

○平成28年11月8日 徳島新聞

南海地震の歴史学んで

企画展開催の県立文書館

小中高生向けに冊子

古文書や伝承など解説

徳島県立文書館は、過去に県内を襲った南海地震について記している歴史資料を解説した「知ろう！学ぼう！記録資料に見る南海地震」(A4判、12頁)を発行した。古文書や石碑などの記述を小学校高学年～中学生向けに分かりやすく説明している。同館で開かれている同名タイトルの特別企画展の解説書を兼ねており、県内の全小中高校と市町村教育委員会に配った。

県内全校・教委に配布

企画展は来年1月29日開幕。冊子は11月25日刊行。県内各小中高校と市町村教育委員会に配った。

室町時代前期(南北)に発生した1361年の康安の地震(正平地震)から1946年の昭和の地震まで、被害記録が残る5回の南海地震と、海部郡穴喰浦(現海陽町)での被害記録しか残っていない「まぼろしの津波」と称される1512年の永正の津波を取り上げている。

康安の地震は、南北朝時代の社会の様子を描いた「太平記」に詳細に記述されている。宝永の地震(1770年)は、牟岐町八幡神社の社殿が津波で流された。南海地震を歴史資料から紹介する冊子「知ろう！学ぼう！記録資料に見る南海地震」



※ 小冊子の内容は参考資料1を参照。

4 展示解説

企画展「記録史料に見る南海地震展」展示解説

平成28年11月27日(日)・平成29年1月15日(日)の2度開催。

展示資料の解説を行う。

11月27日(日) 参加者：11名

内容：康安の南海地震(1361)について(「太平記」と「淡路名所図会」)

※11月27日(日)には徳島市立高校の生徒が聴講。

○読売新聞 平成28年12月15日(木)

南海地震70年
語るを継ぐ

海陽町穴喰浦に伝わる古文書「震潮記」。室町から江戸時代に同地区を襲った4回の南海地震の被害が詳細に記されている。10年前に現代語訳された震潮記が、10代の若者4人の心を動かした。

徳島市立高理数科2年の小川拓泰さん(17)と吉田遊野さん(16)、榊真希さん(17)、有吉萌世さん(17)は、同校が2017年3月に開催する防災フォーラムで、南海地震について発表する。

その資料として最初に読んだのが、震潮記だった。地震後すぐに高台に避難する教えは、何百年も昔から語り継がれていたことを、この本で初めて知った。

4人は、その後も関連する文献を読みあさり、県立文書館(徳島市)の職員に聞き取りするなど勉強を重ねた。そのうちに、共通の不安を抱くようになった。大地震の経験がない自分たちの世代が、「その時」に、迅速な行動ができるのか。心配していたことが起きた。10月21日、鳥取県で最大震度6弱の地震が発生。教室では地震を知らせる携帯電話の受信音が鳴り響いたが、すぐに机の下に

意識の差 命守れるかの差

研究を進める
徳島市立高生4人

「意識の差が、次の災害からどれだけ命を守れるかの差になる。同世代のみんなにそう呼び掛けたい」。先人の思いを継ぐ次世代の取り組みは始まっている。

隠れたのは数人だけだった。自分たちも含め、反応は鈍かった。有吉さんは「鳥取だったので『ここは大丈夫』と思ってしまった」と反省する。

「意識の差が、次の災害からどれだけ命を守れるかの差になる。同世代のみんなにそう呼び掛けたい」。先人の思いを継ぐ次世代の取り組みは始まっている。



南海地震に関する文献を手話し合う徳島市立高の生徒たち(徳島市で)

1月15日(日) 参加者：13名

内容：中財家文書「諸国大地震実録記」について

5 史料調査報告会

南海地震史料調査委員会調査報告会「南海地震の古文書・古記録を読み解く」

平成28年12月17日(土)開催

開催場所：徳島県立文書館講座室

参加者：55名

開催趣旨

徳島県内には、過去周期的に起きてきた南海地震を記録した古文書・古記録及び公文書などが残されています。それら歴史資料をどのように読み解き現代・未来に活かしていくのか、調査の概要報告を通してともに考えていきたいと思います。

○南海地震史料調査委員会調査報告会チラシ

平成28年度としま政策研究センター支援事業
「徳島県内における南海地震に関する歴史資料の調査研究」

南海地震史料調査委員会調査報告会 南海地震の古文書・古記録を読み解く

日時：平成28年12月17日(土)
午後1時30分～3時50分
入場無料(申込不要)

会場：徳島県立文書館2階講座室

次期
開会行事 1時30分～40分
史料調査の概要 金原花樹(徳島県立文書館職員)
1時40分～2時

報告1「南海地震を記録・石碑から考える
—板野郡大松村組頭庄屋記録を中心に—」
菅野将史(佐茂町歴史民俗資料館・人形砂楽庵芝居資料館 学芸員)
2時～2時40分
-10分休憩-

報告2「古文書から見る南海地震からの復興」
町田 哲(鳴門教育大学准教授)
2時50分～3時30分

質疑応答 3時30分～3時50分

閉会行事
※閉会后、展示解説(展示室)を行います。(午後3:50-4:20)

主催 南海地震資料調査委員会
(事務局 徳島県立文書館)

西井家文書
「大地震大津波伝承」

文化の森総合公園 徳島県立文書館 770-8070 徳島市八万町島舟山
Tel.089-669-3700 FAX.089-669-7199
Tokushima Prefectural Archives http://www.arch.tokushima-cd.jp

○毎日新聞 平成28年12月18日(日)

宝永地震で地盤沈下

東海・東南海・南海の3連動地震とされる宝永地震(1707年)によって、和田島村(現在の小松島市)で地盤沈下があったと伝える古文書が見つかった。県立文書館(徳島市八万町)で17日、報告会があり、専門家は「過去の地震でどのような被害があったか知れば、現代の防災を考える上で参考になる」と話した。

報告会は、南海トラフ巨大地震に備え、記録から教訓を得ようと県が設けた南海地震史料調査委員会が開いた。所属する専門家らは、県立文書館の収蔵品のほか、県南部の民家に残っていた古文書などを調査した。

見つかった古文書は、地震から28年後

専門家古文書を調査

の1735年に和田島村の大地主が徳島藩に向けて書いたもの。読み解いた鳴門教育大大学院の町田哲准教授は、地震の影響によって現在の小松島市沿岸部で液状化現象や地盤沈下が起き、塩害も発生したと説明した。

報告会では他にも、安政南海地震(1854年)が起きた翌日、現在の徳島市川内町や松茂町の付近で、「津波が来るとお告げがあった」という極度の不安な話により、村人が逃げ出した」と記された古文書も紹介された。

報告を聞いた徳島市立高校2年の有吉萌世さん(17)は「昔の人が残した記録や知識は現代でも役立つと分かった。古文書について勉強したい」と話した。

【河村 諭】

宝永地震で起きた地盤沈下を伝える古文書について講演する鳴門教育大大学院の町田哲准教授(右)＝県立文書館で

6 パネルの展示

平成28年12月21日(水) この日は昭和南海地震から70年
アスティ徳島にて開催された、メモリアル行事 「昭和南海地震70年の集い」にパネ
ル展示として参加した。

「南海地震史料調査委員会の活動」について5枚の解説パネルを作成し展示した。

7 公文書管理保存講座

平成29年2月23日(木)

受講者11名

開催趣旨

公文書の管理・保存が行政上必要であることは自明の理であり、それに基づいて各自
治体などで「文書規程」などが作成されています。公文書は自治体の実際を映す鏡であり、
その動きから、各自治体のアイデンティティを得ることもなり得ます。

今回の公文書管理保存講座では、今年度徳島県立文書館において行った「徳島県内
における南海地震に関する歴史資料の調査研究」から昭和21年に発生した昭和南海地震に
ついての歴史的な公文書を紹介すると共に、歴史的公文書の管理・保存の意味について皆
様と共に考えていきたいと思っております。

研修内容及び講師

(1) 開会行事 13:30~13:35

(2) 報 告 1 13:35~14:30

徳島県立文書館における公文書保存管理の実際

(南海地震史料調査概要の報告を含む)

徳島県立文書館 課長補佐(公文書担当)

金原 祐樹

報 告 2 14:40~15:20

「公文書から見る昭和南海地震」

徳島県立文書館 文化推進員

安部 哲次

(4) 見 学 15:20~16:00

徳島県立文書館書庫等の見学

徳島県立文書館 課長補佐(公文書担当)

金原 祐樹

文化推進員

安部 哲次

○ 講座の様子



8 文書館だより 38号への調査概要掲載

今回の調査研究の概要について、徳島県立文書館発行『徳島県立文書館だより』38号に4～5頁に渡って掲載した。

9 史料集の作成

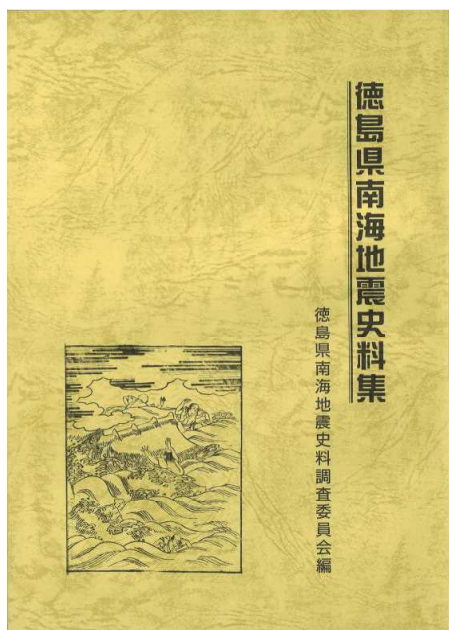
「徳島県南海地震史料集」

江戸時代以前の古文書・古記録を中心に44点を掲載した。口絵4頁、本文244頁の史料集となった。平成29年3月1日付けにて200部を作成。

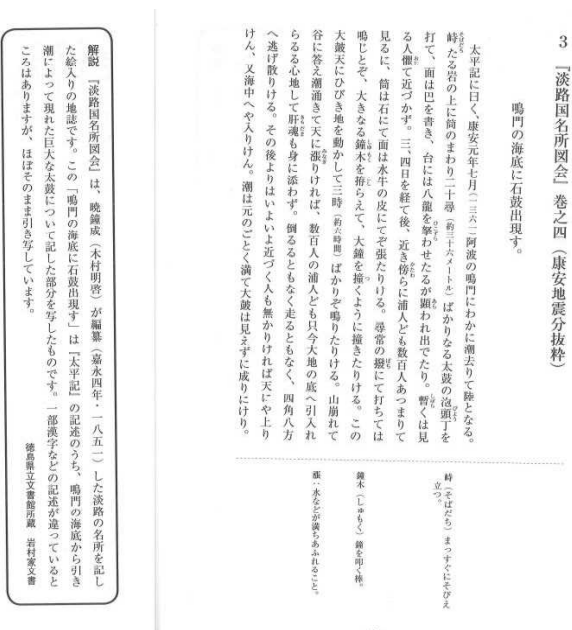
古文書は理解されやすいように本文は読み下し文とし、ルビを振り、脚注つけた。また文書の概要や出所などを示した解説を付したことにより、多くの方に利用しやすく興味を持っていただける史料集となった。県内市町村教育委員会・県内図書館・館内高等学校などに配付をした。

刊行部数が少ないため、今後はこの冊子のみならず、画像データとも合わせてデジタルアーカイブとして広く県民に提供することも検討している。

○ 徳島県南海地震史料集 表紙



内容



9 マスコミ報道

No.	報道された日	媒体	内 容
1	平成 28 年 8 月 21 日	徳島新聞	「震潮記」に学ぶ
2	同 10 月 24 日	徳島新聞	明日から企画展「記録史料に見る南海地震」展
3	同 10 月 25 日	NHK 徳島	企画展始まる。ニュース報道にて
4	同 10 月 26 日	徳島新聞	南海地震の教訓紹介 企画展始まる
5	同 10 月 27 日	朝日新聞	被害記す古文書など紹介 企画展始まる
6	同 11 月 1 日	毎日新聞	記録資料で南海地震紹介 企画展始まる
7	同 11 月 8 日	徳島新聞	南海地震の歴史学んで 小冊子発刊
8	同 11 月 10 日	徳島新聞	鳴門史学会「災害と歴史資料」に寄せて
9	同 11 月 18 日	四国放送	企画展の展示内容について ニュース報道にて
9	同 11 月 28 日	読売新聞	南海地震史料で振り返る。 企画展紹介
10	同 12 月 12 日	徳島新聞	記された教訓 5 円頓寺旧記
11	同 12 月 15 日	読売新聞	南海地震 70 年語る継ぐ 高校生の研究活動
12	同 12 月 15 日	徳島新聞	記された教訓 6 牟岐八幡神社の額
13	同 12 月 16 日	徳島新聞	記された教訓 7 中財家文書大地震実録記
14	同 12 月 17 日	徳島新聞	小松島で地盤沈下 宝永南海地震 報告会
15	同 12 月 18 日	徳島新聞	記された教訓 8 浅川村会議事録
16	同 12 月 18 日	徳島新聞	南海地震史料調査報告会開催
17	同 12 月 18 日	朝日新聞	南海地震史料調査報告会開催
18	同 12 月 18 日	毎日新聞	南海地震史料調査報告会開催
19	同 12 月 18 日	読売新聞	南海地震史料調査報告会開催
20	同 12 月 20 日	NHK 徳島	宝永地震の地盤沈下 ニュース報道にて
21	同 12 月 21 日	徳島新聞	南海地震を知るために 小冊子紹介
22	同 12 月 21 日	毎日放送	企画展紹介 ニュース報道にて
23	同 12 月 25 日	AI テレビ	テレビミュージアム 企画展紹介
24	平成 29 年 1 月 6 日	NHK ラジオ	企画展の紹介 番組「四国だごーごー」にて

IV 調査研究成果と今後の展望

今回の調査研究では、事前に南海地震に関する古文書・古記録はかなりの量があることは見込まれていたが、実際の量や内容は把握していなかった。そのため、文書館内部で所蔵している資料を確認すると共に、直接南海地震の関係資料の所蔵が見込まれる、徳島県南部沿岸の町村役場・教育委員会に要請をして、それまでに知られている資料及び新資料の確認を行っていくことをおこなった。

この調査研究によって、南海地震の歴史に関するいくつかの新しい視点が見いだされ始めている。ひとつは、徳島県東部における地盤沈下が宝永地震においても見られることが古文書から明らかになったことである。これによって、昭和南海地震、安政の南海地震で見られた地盤沈下が、宝永地震でも確認され、地盤沈下を起こすことが広く南海地震の特徴として捉えられるに至った。また、江戸時代には地盤沈下によって長期に渡って塩害に悩まされていた様子がわかる。

もうひとつは古文書・古記録以外に、昭和南海地震の公文書が複数の町で残されていることがわかったことである。昭和南海地震は、昭和21年（1946）12月という戦後の最も混乱した時期に起こった災害であり、物資不足等により文書が残されている可能性は低いと予想していたが、各町により把握されていた地震被害の有り様や、その後の復興過程の様子を生々しく語る公文書が残されていたことにより、今後より具体的に当時の被災地の実態を知る糧となることは間違いない。

こうしたことは、普及用の小冊子にも要約ではあるが掲載することができたので、是非幅広くご利用いただきたい。

また、平成28年度が昭和南海地震発生70年ということもあり、この調査研究活動についてさまざまなマスコミで注目していただいたことにより、県内の幅広い方々に南海地震の実態を残す古文書や古記録があること知っていただけた事は大きな成果と考える。

今回の調査は、徳島県内における南海地震に関する歴史資料を把握するための基礎的な調査研究である。この基礎的な調査によって特定された歴史資料は、今後幅広く公開され県の大きな課題である南海地震の防災や減災に役立てて行かなければならない。

さらに、今後に残した課題も大きい。

①今回の調査研究では、調査対象を、津波による災害に見舞われることが予測される南部にせざるを得なかったこと。そのため、北部や内陸地域の十分な史料調査を断念せざるを得なかったこと。

②昭和南海の公文書は、内容が詳細なため、十分な検討の時間が取れず、作成した史料集に反映できなかったこと。

③今後、調査によって知り得た歴史資料や情報について、一部は史料集等によって公開していくが、どのように今後の研究や、さまざまな普及活動に役立てていけるのか。

地域の歴史的な事実を次世代につなぐために、地震に限らず幅広い災害資料の調査・研究の必要性は今後も増していくと考える。今後も地道ではあるが、基礎資料の確認と資料情報普及に努めていきたい。

平成29年3月31日脱稿